

## 第61回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

HG08	高校	地学	滋賀
学校名	滋賀県立米原高等学校		
研究作品タイトル	伊吹・霊仙山系の里山の変遷		
生徒氏名 (共同の場合はグループ名)	地学部		
指導教諭氏名	坂本 大介		

### 【動機】

伊吹・霊仙山系では、山頂でのボーリング調査などが行われておらず、古環境についてはあまり調べられてこなかった。それは、誰もが簡単に調査できないため、私たち地学部なら協力してできると考え、今年度も山頂などで調査をし、里山の変遷を調べようと考えた。

### 【方法】

①昨年度までの経験を活かし、花粉化石と微粒炭に加えて大型植物化石を調べることで、より詳細な古環境や人為的な活動の程度を調べるため。②調査する地層の年代は、火山灰分析と先行研究調べに加え、地元の歴史資料などを調べることで、自分たちで決めることを研究の方針にした。

### 【結果】

330年前から昭和30年頃まで、伊吹山、御池岳、霊仙山周辺は、ともにマツ属を中心とした木本類が多い。伊吹山の山頂はキク亜科など虫媒花を中心とするお花畑、他はイネ科中心の草原であった。縄文の姉川流域では、ケヤキ属やブナ属などを中心とする森林だった。

### 【結論】

江戸時代～昭和30年頃の伊吹・霊仙山系は、すべてマツ属を中心とするはげ山であり、伊吹山の山頂はお花畑、御池岳と霊仙山の山頂は草原であった。また、雨乞いの儀式が行われていた。縄文の姉川流域はマツ属が少ないことから、里山として利用されていなかった。

### 【展望】

今回の研究では、伊吹・霊仙山系の江戸時代～昭和30年までの古環境が分かっただけでなく、当時の人と自然のかかわりについても分かったため、当時の歴史的な事象に合わせて、この付近の人々の生活をより細かく再現できるのではないかと考えられる。